



くわのみ

桑野地区体育祭を振り返って

館長 吾妻 敦



新型コロナウイルスの影響で、4年ぶりの開催。その間、町内会や子ども会によっては会長が変わり、体育祭が未経験であったり、従来活躍していた役員の高齢化が進んだりなどの変化の中での開催となりました。実行委員会事務局である公民館側も、事前の会議や準備などかなりの時間を要しましたし、町内会や子ども会の役員や関係の方々も苦勞されたことと思います。

今回は、久しぶりの開催ということもあり、種目数を減らしたり、走る距離を短くしたりなど安全面に十分に配慮したプログラムに改善しました。また、地域の方が楽しんでいただくように新たに「ガラガラ抽選会」を取り入れましたがどうだったでしょうか。

体育祭当日は、体育館での小中学生参加の個人種目、町内会対抗の団体競技など、ロコミや感想、撮影した映像などみると、楽しそうな姿がいろいろな場面でみられました。

私見ではありますが、今回の体育祭を以下振り返ってみました。

1 地区体育祭の趣旨

体育祭実施要項にありますように「体力の向上と地域住民同士の交流の場と共に、明るく住みよいまちづくり」のための大きなイベントとして地区体育祭を開催しています。

2 これまでの成果と町内会参加推移

49回の歴史を重ねる中で、町内会対抗種目を通じて、地域住民同士が知り合い、地域コミュニティの醸成に貢献してきました。しかしながら、近年は、体育祭の参加者が年々減少をしています。

3 今後の展望

- 新型コロナの感染拡大によって、町内会やスポーツ団体の活動も長らく自粛を余儀なくされ、団体構成員同士のコミュニケーションも低下してきているため、コロナ前のような活動を継続していくことが困難になってきています。
- 日本のスポーツは、これまで野球やバレーボールなどの団体競技を中心に発展してきました。近年、競技人口が減少する一方で、ニュースポーツの普及やスポーツの親しみ方が多様化してきています。
- 20～30代の現役世代が減少する一方で、60代以上の世代が増加して高齢化が進んで参加者の確保が難しくなってきています。
- 今後、地域住民が参加しやすくするためには、「レクリエーション性の高いイベントの新設」も必要になってくると思います。ニュースポーツなどスポーツの多様化に対応して、様々なスポーツが体験できるイベント、子ども、高齢者、障がい者が楽しめる企画など考えられます。
- 町内会単位で参加する体育祭の開催方法から、町内会だけでなく個人や仲間、チームでも参加できるスポーツ・レクリエーションイベントとして開催することも必要になってくると思います。

参加者、スタッフ、モチベーション、予算などいろいろな問題は多く、すぐには答えが見つかるものではないと思いますが、次年度以降の開催に向けて、地域住民の意見も取り入れながら検討・改善していくことに価値があると考えます。

みつけたらよんでみよう **おすすめの絵本** 筆：たかみや みちこ

とべバッタ

さく：田島 征三



今回は「とべバッタ」を紹介したいと思います。バッタが苦手な方は、表紙を見ると本を開くのに少し勇気がいるかもしれませんが、お話しにはとても力強さがあり、惹き込まれるものがあります。ぜひみつけたらよんでみてください。

小さな茂みの中で天敵に襲われまいと、毎日びくびくしながら暮らしていたバッタ、こんなところでおびえながら生きていくのが嫌になったバッタは、決意をします・・・

そしてバッタは、自分で行動をとり、今まで気付かなかった自分の新しい力を見つけ、その力で自分の行きたいところへと、とんでいきます。

だれから何と言われようとも・・・

もし今、なにかにびくびくしていたり、嫌になっていたたりすることがあるなら、ぜひ絵本を読んでバッタから勇気と強さをもらってみてください。

そして、とんでいるバッタを見かけたときは、ぜひ「すごい!!」とその決意をたたえるような声かけをしてみてもいいでしょうか。



『男のわいわい塾・皮工芸』 ～講座を企画担当して～ 公民館職員 高橋 真理

今回から男のわいわい塾を担当させて頂くことになりました。塾生の皆様には、温かく迎えて頂き、とても感謝しております。これからもよろしくお願い致します。

第5回になる今回は、先生や塾生の皆さんと一緒に革のキーホルダーづくりに参加してもらいました。

はじめに、厚みのある皮生地に模様が彫ってある金属の棒を置き、上から木槌で打ち付けて、跡をつけます。とても力のいる作業のようでしたが、皆さん革生地に模様がくっきりと写っており、先生も褒めておられました。花や葉っぱなどの植物、猫や犬、うさぎなどの動物、アルファベットや丸、三日月といった記号など、たくさんの模様があり、どんなデザインにしようか迷いそうに思うのですが、皆さん着々と、自由にイメージしながら模様を付けておられるようでした。その過程を拝見させて頂きましたが、皆さん模様の位置や組み合わせなど、どれもとてもオリジナリティーがあり、魅力的なデザインでした。

次に、できあがった模様に、筆を使って色付けをしていきます。色は、ピンクと黄色でオレンジ色、青と黄色でみどり色を作りだすなど、様々な色で色付けすることができます。その際、革生地にどちらの色を先に塗るかで微妙にオレンジやみどりの色が変わるということを先生から教えてもらい、皆さんの作品は、それぞれ違ったみどりやオレンジ色が染められており、また、その他のたくさん色で模様が彩られていきました。また、あえて塗らずに皮の色を残すなどの方法もあるそうで、先生からのたくさんのご提案や、皆さんからデザインのイメージや革の色が変化していくことについてお聞きすると、革工芸や芸術の奥の深さを感じました。

最後に塗料をドライヤーで乾かして、革に金具を留めてキーホルダーにします。金具留めの仕方などを先生から教わり、皆さんもそれぞれお互いに一緒にやられており、とても素敵な雰囲気で作品が出来上がっていきました。

先生からの細やかで手厚い指導や、皆さんの個性溢れるデザインやチームワークの力もあり、素敵な作品になりました。皆さんの作品は、文化祭に出展しますので、地域の皆様が文化祭に立ち寄られた際は、ぜひ素敵な色合いや模様の革キーホルダーを見て楽しんで頂ければ嬉しいと思います。

